

2 1 森林の働き、国有林野事業 に対する理解度について

黒石営林署 ○ 八木橋 春治
白戸 新一
木村 新一

1 はじめに

近年、国民の価値観が物の豊かさから、心の豊かさを求める傾向にある中で、森林・林業に対する国民の要請は多種多様化・高度化しており、林産物の生産はもちろんのこと、水資源のかん養、国土の保全、保健休養の場の提供等森林の有する多面的な機能の一層の発揮を求められているところである。

国有林野事業においては、国民のニーズに応える多様で質の高い森林の整備と、「国産材時代」を実現するための生産・加工・流通における条件整備とを基本課題とし、それに対応するために流域管理システムの確立と諸施策の実行に努めるとともに機能類型を基本として国有林の各種機能が十分発揮できるよう森林施業を実施しなければならないところである。

私たちは森林官として、現場の第一線で事業を実行するにあたり何といても地域と密接な連携を図りながら適切な森林施業を行い、国有林野の所在する地域社会を始め大きくは国民全体の国有林野事業に対する一層の理解と協力を得ていくことが肝要であるという認識にたって、地域住民の方々の国有林野事業に対する認識度合いを把握することが国有林野事業の使命を果たすための具体的な要請であると受け止め、この課題に取り組んだものである。

調査は、平成5年度の「森と湖に親しむ旬間」のテーマに基づき、地元新聞紙上に依頼し50人の一般公募を行い、「津根川森樹海とダム周辺の森めぐり」のイベントを実施し、この参加者によるアンケート調査によって認識度合いの考察を試みたものである。

2 津根川森樹海とダム周辺の森めぐり

このイベントは、黒石市役所→津軽こけし館→津根川森樹海→水辺の公園→ぶなの森→虹の湖公園→浅瀬石川ダム→黒石市役所とたどり、参加希望者は表-1のように51人であったが、当日天候が不順であったためか参加者は表-2のように黒石営林署管内一市一町一村、隣接二市からの39人となり、その年齢別は表-3のとおりである。

表-1 参加希望者

市町村	黒石市	平賀町	常磐村	弘前市	青森市	計
人員	24人	1人	2人	14人	10人	51人
歩合	47%	2%	4%	27%	20%	100%

表-2 参加者

市町村	黒石市	平賀町	常磐村	弘前市	青森市	計	
人員	20人	1人	2人	8人	8人	39人	
歩合	51%	2%	5%	21%	21%	100%	
内 訳	男	12人		1人	3人	4人	20人
	女	8人	1人	1人	5人	4人	19人

表-3 年齢別

年代別	10代下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
男	2人	1人	0人	1人	5人	1人	9人	1人
女	0人	1人	0人	3人	3人	6人	5人	1人
計	2人	2人	0人	4人	8人	7人	14人	2人
歩合	5%	5%	0%	10%	21%	18%	36%	5%

(ウ) 森林の仕組みと働きについて

表-7の3

区 分	よく理解できた	少し理解できた	計
よく知っていた	13 人	0 人	13 人
よく知らなかった	7 人	11 人	18 人
計	20 人	11 人	31 人

表-7の1～表-7の3の調査から、営林署の仕事について、よく知っていた人は勿論のこと、よく知らなかった人もイベントを実施したことにより各項目とも100%の理解をいただくことができたことがうかがわれる。

(4) 森林の伐採について

表-8

区 分	森林の働きを 損なわない伐 採は理解する	よく分からな い	自然保護を優 先し、伐採は すべきでない	計
よく知っていた	9 人	0 人	4 人	13 人
よく知らなかった	13 人	2 人	3 人	18 人
計	22 人	2 人	7 人	31 人

森林の伐採については、71%の人は森林の働きを損なわない伐採は理解するとしており、23%人は自然保護を優先し伐採はすべきでないの回答であった。

(5) その他の意見・希望・感想について

- ① 植林するときは、杉などでなく伐採前と同じものを植えてほしい。
- ② 自然に親しむ機会の少ない、私にとっては素晴らしい一日でした、営林署の仕事と森林の役割について、知識として知っているつもりでしたが実際に現場に触れることによって重大さを深くすることができました。
- ③ 自然に親しむ為にも、自分の健康の為にも大変よかった、今後もこのような企画に是非参加したいので、続けて欲しい。
- ④ 森林施業の奥行きの高さ、事の重大さと大変勉強になりました、また参加したい。
- ⑤ 営林署は自らやっている仕事について、もっと積極的にPRしてほしい。
- ⑥ 子供連れが少ないのには驚いた、しかし、「ぶなの森」の散策が最も感激。
- ⑦ 夏休み期間中でもあり、子供たちの学習面に役立てればと参加しましたが、スケジュールに少し無理があり残念でした、しかし、親である私にとっては大変な勉強になりました。
- ⑧ もう少し、山を歩いて森林浴にひたれる時間帯にしてほしかった。

以上のような、貴重な意見・希望・感想をいただいたが、全体的に「また参加したい」「営林署職員の方々の親切でいねいな説明と対応に感謝致します」「今日一日ありがとうございました」等のコメントがあった。

4 考 察

- ① 全体的に緑と水をイメージした自然に対する関心が高いことが判った。
- ② 国有林野事業の果たしている役割のPR不足が指摘されている。
- ③ 国土保全・災害防止の観点から、治山事業の必要性和実行についての認識があったが、営林署が行っているとの見識は薄かった。
- ④ 国有林で行われている森林施業がよく理解されていなかった。
- ⑤ 伐採については、「森林の働きを損なわなければ理解する」が多いが、「自然保護を優先し伐採すべきでない」との意見もあった。
- ⑥ イベントをとうしての森林・林業に接する機会を作ることによってPR効果は大きいものである。

表-6

イベント参加前	よく知っていた	よく知らなかった	知らなかった
営林署の役割・仕事について	13人 42%	18人 58%	0人 0%
治山事業について	24人 77%	0人 0%	7人 23%

イ イベントに参加してからの認識調査結果については表-7のとおりとなった。

表-7

イベント参加後	よく理解できた	少し理解できた	理解できなかった
営林署の役割・仕事について	19人	12人	0人
森林と水と私達の生活との関係について	22人	9人	0人
森林の仕組みと働きについて	20人	11人	0人

このことについて、イベント参加前に営林署の役割・仕事について「よく知っていた人」「よく知らなかった人」について分類してみた。

(7) 営林署の役割・仕事について

表-7の1

区 分	よく理解できた	少し理解できた	計
よく知っていた	13 人	0 人	13 人
よく知らなかった	6 人	12 人	18 人
計	19 人	12 人	31 人

(1) 森林と水と私達の生活との関係について

表-7の2

区 分	よく理解できた	少し理解できた	計
よく知っていた	13 人	0 人	13 人
よく知らなかった	9 人	9 人	18 人
計	22 人	9 人	31 人

以上のことから、20代の参加者はなく、40代以上の層が80%と多く、特に60代以上が41%と多い比率となった。

このことは、戦前及び戦後の激動期に一心不乱となり活躍し、今日のわが国の経済大国に寄与した層が心に幾ばくかのゆとりができたことから、物の豊かさから、ゆとりと潤いを求めているものと判断される。

3 アンケート調査結果について

アンケート回答者は31人と少ないデータであるが、集約結果は次のとおりである。

(1) 回答者の年代別・性別について

回答者の年代別、性別内訳は表-4のとおり男性55%、女性45%となっている。

年代別では60代以上が全体の48%と多くついで40代から50代42%との順となっており、このことから60代以上の層の関心が高いことがうかがわれる。

表-4

年代別	30代	40代	50代	60代	70代	計	
男	1人	5人	1人	9人	1人	17人	55%
女	2人	2人	5人	4人	1人	14人	45%
計	3人	7人	6人	13人	2人	31人	100%
	10%	23%	19%	42%	6%		

(2) 参加のきっかけについて

参加のきっかけは、表-5のとおり「山・川の自然に親しみたかった」がもともと多く男性48%、女性35%と全体の83%となっており、「ダム・湖を見たかった」を含めて全体の94%となり、森と水といった自然に対する関心の高いことがうかがわれる。

表-5

区 分	男	女	計	
山・川の自然に親しみたかった	15人	11人	26人	84%
ダム・湖を見たかった	1人	2人	3人	10%
津軽こけし館を見たかった	1人	1人	2人	6%
計	17人	14人	31人	100%

(3) イベントに参加して

ア 津根川森国有林、通称「津根川森樹海」では、展望所から樹海を一望した後に樹海の中を散策し、付近に位置する中沢治山工事施工箇所の見学を行った。青荷沢国有林ブナ遺伝資源保存林、通称「ぶなの森」では森林浴をたのしみながら、「森林の仕組みと働き」「森林と水と私達の生活との関係」「営林署の役割・仕事」等の森林教室を実施し、建設省浅瀬石川ダムを見学してダムの働きと構造を学んだ。

イベント参加前の営林署の役割・仕事についての認識は表-6のとおりであり、よく知っていた13人(42%)、よく知らなかった18人(58%)、全く知らなかった0人(0%)となり、営林署の役割・仕事についての認識は低いものであった。また、治山事業を行っていることについて24人(77%)が知っていたが、営林署が直接実施していることについては、ほとんどの者知っていなかったことが判った。

4 おわりに

今回のアンケート調査結果をみて、自然環境に対しての意識は高く森林に対する要請は多種多様化・高度化している。

今後も、この傾向は益々高くなって行くことは明らかであり、営林署に対する期待感が一層高まってくると考える。

しかしながら、地域を始めとして営林署に対する理解度は低く、ややもすれば誤解をされていると思われる点が多いと考えられる。

このようなことから、営林署の現場第一線での責任者森林官として、地域社会を含め国民全体の方々の要請に応えられる森林造りを行って行かなければならないと再認識したところである。

流域管理の理念を踏まえて、森林の有している諸機能が最高に発揮できるよう、その各機能に応じた適切な森林施業を行うことにより、森林は整備され国産材時代を迎えることができると確信するものである。

このことから、森林官として日常の業務をとうして地元住民と一層の対話を深めながら意見交換をし、情報を収集を行い、森林造りの意気込みを伝い地域での密接な連携と充実した森林整備を行って、各イベント等に積極的に参加して、あらゆる機会をとらえてPR活動に努めていくことが真の理解されるPR活動であり、このことが国有林野事業への理解を高める第一歩と考える。